

第5回日本スポーツグランプリ 受賞者(功績)

1.	はらだ ひろし 原田 宏	(男性)	91歳	埼玉県	サッカー	活動歴: 62年	顕彰対象区分(1)
<p>高校(旧制中学)からサッカーをはじめ、60年以上にわたり埼玉県を代表する選手として活躍している。全国スポーツ・レクリエーション祭に、昭和63年の第1回大会から第6回大会まで埼玉四十雀サッカークラブの選手兼監督として出場し、埼玉に原田ありと全国にその名を知らしめた。また、全国シニア(Over-60)サッカー大会に平成12年から4回出場する他、ねんりんピックでは、最高齢者賞を3回、高齢者賞を4回受賞している。現在も現役選手として県内外の交流大会に参加しており、全国のサッカーマンから慕われ、憧れの存在である。</p>							
2.	ほそい ひでひこ 細井 英彦	(男性)	82歳	東京都	アーチェリー	活動歴: 66年	顕彰対象区分(1)
<p>高校(旧制中学)から弓道をはじめ、大学入学後アーチェリーに転向する。現在も高校部活動で指導する傍ら、週2回、1日100本程度弓を引いている他、会員となっている新宿区アーチェリー協会が行う2ヶ月に一回の合宿では、1日200本以上という日本代表選手の大会矢数をはるかに超える練習を行っている。競技会には一切参加していないものの、20代から一貫して練習に励む姿は周囲の尊敬を集めており、一射手としての常日頃の精励は生涯スポーツ実践者として評価に値する。</p>							
3.	やまぐち しげお 山口 繁雄	(男性)	90歳	東京都	ダンススポーツ	活動歴: 58年	顕彰対象区分(1)
<p>32歳からダンススポーツをはじめ、全日本ダンス選手権においてスタンダード部門総合3位となるなど活躍した。シニア選手としては、昭和48年の全英シニア選手権出場を皮切りに、昭和52年には全日本ダンス選手権においてシニア・スタンダード部門で優勝を果たした。また、東アジアダンス選手権においては、シニア・スタンダード、シニア・ラテンの両部門で昭和53年から二連覇を達成した。その後も国内外の競技会等においてデモンストレータとして出場するなど、90歳を迎えた今日でも自らのレッスンを続けている。</p>							
4.	たかはし かんじゅう 高橋 勘十	(男性)	79歳	岩手県	柔道	活動歴: 67年	顕彰対象区分(1)
<p>高校(旧制中学)から柔道をはじめ、野球に転向する。その後、再び柔道をはじめ、全日本学生柔道優勝大会等に出場した。県立高校教員に就職後は部活動を指導する傍ら自らも柔道の稽古に励み、昭和39年から現在まで全国柔道高段者大会に35回出場している他、世界マスターズ柔道選手権大会の73kg級において、平成15年から現在に至るまで7年連続優勝中である。また、陸上競技やスキーのマスターズ大会に出場し優勝するなど、現在も複数のスポーツに意欲的に取り組んでいる。</p>							
5.	きの ひろいち 木野 廣一	(男性)	78歳	大阪府	ボート	活動歴: 60年	顕彰対象区分(1)
<p>大学入学と同時にボートをはじめ、関西学生リーグ戦で3回の優勝を果たした。卒業後も実業団で活躍し、全日本社会人実業団選手権大会においては優勝3回の成績を残すとともに、13年連続出場の日本記録を樹立した。近年では全国ねんりんピックのレガッタ・シングルスカルにおいて、出場3回で2回優勝している。また、世界マスターズレガッタには平成11年から毎年出漕し、3位2回の成績を残すとともに、平成21年まで11回連続出場の世界記録を樹立している。現在、日本マスターズレガッタ・シングルスカルにおいて平成20年より2年連続優勝中である。</p>							
6.	あほ はじめ 阿保 壹	(男性)	93歳	大阪府	ラグビーフットボール	活動歴: 68年	顕彰対象区分(1)
<p>高校(旧制中学)からラグビーをはじめ、全国中等学校大会に出場し、3位の成績を残した。その後もラグビーを続け、68年のキャリアを持つ現役ラグーマンである。30歳から天理高校OBクラブに加入し、近畿日本鉄道ラグビー部や大阪府警との定期戦に出場。57歳から天理オールドベアに所属し、30年以上にわたり各チームとの定期戦に出場を続けており、77歳で全国不惑ラグビー大会に出場している。現在では90歳以上に許される金色のパンツを身にまとい、相手チームからも尊敬を受ける存在となっている。</p>							
7.	みやざき かつみ 宮崎 克己	(男性)	80歳	福岡県	剣道	活動歴: 55年	顕彰対象区分(1)
<p>25歳から陸上自衛隊で剣道をはじめて以来、80歳となる現在まで55年にわたり剣道の修行を通じて自己の人格形成に努めるとともに、各種大会に出場し優秀な成績を収めている。福岡県剣道連盟福岡県連合支部剣道大会年齢別個人戦には、平成4年から13年にかけて出場し、優勝3回、3位1回、また、福岡県ねんりんスポーツ文化祭剣道交流大会個人戦には、平成14年から21年にかけて出場し、優勝4回、準優勝1回などの成績を残している。特に全日本高齢者武道大会には、平成19年から出場し、平成20年・21年の連続優勝などの成績を残している。</p>							

8.	よしもと ひろむ 吉本 弘	(男性)	95歳	兵庫県	水泳	活動歴: 52年	顕彰対象区分(2)
<p>幼少の頃から水泳をはじめ、高校(旧制中学)では競泳で活躍をした。大学で水球をはじめ、昭和21年の第1回国民体育大会兼日本選手権水上競技大会(水球競技)で優勝している。その後、68歳から競泳に復帰し、27年間で平泳ぎ及びリレーの各種目においてマスターズ世界記録を45回も更新している。特に平成17年には2005日本マスターズ水泳短水路大会において、360歳～399歳区分男女混合200mフリーリレーで日本初の記録を残すとともに世界記録を樹立した。平成21年11月1日現在、平泳ぎの各種目で8個、360歳区分のリレー各種目で4個のマスターズワールドレコードホルダーである。</p>							
9.	なんぶ ひきこ 南部 久子	(女性)	98歳	大阪府	陸上競技	活動歴: 36年	顕彰対象区分(3)
<p>13歳から高等女学校で陸上競技をはじめ、短距離の選手として活躍した。昭和54年に創設された全日本マスターズ陸上競技選手権大会には、当初から出場し、全30大会中29回出場している他、国内外の各種大会において活躍している。特に平成14年の第23回全日本マスターズ陸上競技選手権大会では、W90(90～94歳)クラス砲丸投で3m32の世界記録を樹立し優勝した。近年では、平成20年の第29回全日本マスターズ陸上競技選手権大会に96歳で砲丸投に出場するなど、日本陸上界における女性の最高齢選手としての活躍は、マスターズの星として多くのマスターズ世代選手の目標となっている。</p>							

注) 年齢:平成22年9月25日現在